小説 神楽陽子　挿絵 もふりる

生徒会長ブリーダー

Breed the Student council president

ふ美少女を調教中

立ち読み版

第一話　会長様のヒミツ　006
第二話　ウサギとオオカミ　054
第三話　予防接種は忘れずに　109
第四話　生徒会長と内緒のトイレ　154
第五話　お嬢様の花嫁修業　197
エピローグ　生徒会は夜遅くまで　241

登場人物紹介

Characters

御崎愛煌（みさきあきら）

私立Ｋ央学院の２年Ｂ組。生徒会長でもあり、大金持ちのお嬢様。ワガママではあるがイヤミではなく、生徒からの人気は高い。秀一が自分の召使いをやめたことを未だ根に持っている。

本条秀一（ほんじょうしゅういち）

本編の主人公。私立Ｋ央学院の1年Ａ組。昨年まで愛煌の召使いとして仕えていたため、彼女の性格を概ね把握している。

「命令通りしないと、覗き見したこと言いふらすから」
「僕は覗き見をしたわけではありませんよ……」
しかし彼女の強引で一方的な解釈によって、秀一は覗き魔扱いされ、それからは共犯者もとい保護者として協力を余儀なくされているのだった。
少年の仕事は人目がないかどうかのチェックと、誰かに見つかった際は悪戯の張本人にでっちあげられることである。生徒会長をリードなどで引いているのだから、誰の目にも本条秀一のほうが変態に見えてしまう。
（ムチャクチャですよ。お嬢様は何とでも言い訳できるかもしれませんけど、これでは僕の立場が……で、でも、見つかりさえしなければ、お嬢様の……）
だが、脅されているのとは別に、悪戯を拒絶できない本能的な興味もあった。
「んっはぁ、帰ったら真っ先に、シャワー浴びなくちゃ」
犬や猫といった動物になりきる彼女の、汗をかいて体力まで消耗する放水シーンを、自分ひとりだけ見ることができる。知ることができる。そんな後ろめたい興味を、心のどこかで断ち切れていない。
それに、お嬢様の唯我独尊に少年が逆らえるはずもないし。
やめるにやめられず、ずるずるときているのが現状だった。
牝犬と一緒に職員室の前に差し掛かると、心臓がばくばくと暴れ、口から飛び出そうと

する。秀一も背中にべったりと冷や汗をかいて、ピークに達する緊迫感に息を乱した。
「ははっはやく！　お願いします、お嬢様」
「あっ、焦らせないで。すぐだから……んくふう！」
この時間帯は職員会議のため教員がいない、とはいえ、ここがレッドゾーンであることに変わりはない。職員室すぐ隣の階段で、飼い主は犬を急かす。
お耳と尻尾が愛らしい巨乳美女は両膝とも浮かせて蹲り、もどかしそうに腰を捻った。体操服の中で乳果が揺れるたび、全身も弾む。
「秀一、はあ、誰もいないか見てて？」
華奢な作りの肩を上下させては、湿った息を吐く。
細い腕はしなやかに股座へと手を潜り込ませ、ブルマの股布を脇にのけた。さらにもう一枚のける手つきをして、中指で恥丘のあたりを圧迫する。
直立状態の少年から死角の位置では、とんでもないものが露出しているはず。
秀一は広々とした廊下で寒くなり、居ても立ってもいられず促した。
「はやく出してください！」
ここは彼女のマーキングエリアだった。職員室がすぐ隣にある階段で、誰もいないうちに、朝から溜まった分の用を足すつもりなのである。
生徒会長は片足だけしなやかに持ち上げて、野良犬と変わらないポーズを取った。

「もうちょっと……くふっ、だめ……チカラ、入りきらない……あいぃッ！」
けれども、そう簡単にはいくはずもない。人が通るような場所でお漏らしなど、意図的であってもブレーキが働くもので、一回の排泄に三分ほど掛かる。
顔を赤らめ、唇を弱気に噛む表情が、いつもの彼女らしくない。火照った肉体は不安定の姿勢で股間を、くだりの階段へと突き出していた。
このような悪戯はもうやめて欲しいような。
ここから離れたいから早く出して欲しいような。
（愛煌お嬢様が、変態趣味で、こんなところでオシッコを……）
そして、オシッコしてしまう生徒会長を見たいような。学院の風紀を著しく逸脱する背徳感に、不謹慎にも胸が熱くなってくる。
「んんんッ、んくぅううう……あはぁあああああああッ！」
細い腰をバネみたいにたわめること四回目にして、牝犬は甲高い鳴き声をあげた。張り詰めていた表情からみるみる力が抜け、瞳も涙混じりに蕩けていく。
チョロッ！　ヂョロヂョロヂョロヂョロ！
最初の水音が尿道口を開通させた途端、後続のオシッコが階段へと散り始めた。ホースを狭めたみたいに勢いのある噴射で、愛煌はまったく制御できていない。
「らめぇえええぇえ！　すごいっ出へるぅ！」

呂律のまわらない声を出し、一定間隔で腰と尻尾を振るだけ。その姿は浅ましくて品性の欠片もなく、快楽に酔いしれている。

アクセサリにすぎないはずの耳まで垂れていた。

（お嬢様が……い、いやらしいカオで、オシッコを……）

そんな彼女を間近で目撃する秀一の中で、不慣れな感情が込み上げてくる。生徒会長のはしたない顔つきや、舌足らずな台詞を、可愛い、と衝動的に感じてしまう。しかし恋愛感情には程遠く、その証拠にパンツの中では不謹慎な生き物が脈打っていた。

犬とは、嬉しさが最高潮に達すると本能で失禁してしまう生き物である。もし彼女が犬になりきっているのなら、嬉しいのかもしれない。

気持ちよさそうなことは、彼女の緩みきった顔つきからも確実だ。

チョロロロロ……。

十数秒も続いてようやく、放水が止まる。

階段は上の段から水浸しになっており、尿に特有の刺激臭が立ち込めていた。とはいえトイレのように空気がこもっていないせいか、噎せるほど臭くはない。

生徒会長が尿道口を拭いもせず、ブルマの股布を広げて戻す。

「んはあっ、はぁ……今日のは格別だったわ」

曲線のついた肉体は汗に濡れ、白い体操服を豊乳にべったりと吸い付かせていた。赤系

のブラジャーがくっきりと浮かび上がり、男の子にありのままの形を想像させる。
まだ呼吸は落ち着いておらず、顔など真っ赤だ。両手の人差し指でブルマを整え、お尻の食い込みを強調する。
「あの、お嬢様、そろそろ……」
秀一は無意識に生唾を呑みくだした。ストレートヘアをまとった巨乳美女の、扇情的なブルマ姿にたじたじ。オシッコのにおいが妙に新鮮で、勝手に鼻が疼く。
ふさふさのお耳を強気に立てて恥じらう愛煌は、両腕で巨乳をむんずとかき抱いた。
「じ、ジロジロ見ないでったら。バカ」
「すすっすみません！　とっ、とにかく戻りましょう」
思い出したように飼い主はリードを握り、人の気配があってはならない廊下を進む。牝犬は四つん這いになるものの、オシッコの染みたブルマが気になるのか、「後ろ足」の動きがぎこちない。
「ねー、社会科準備室って三階じゃなかった？」
「四階だって。こないだ行ったもん」
比較的近いところから声がした時は、心臓がびくっと跳ねた。
「お嬢様！　はやっはやく！」
とにかく現場から逃げ出したくて、リードを引く。

「や、やだ、ヘンタイ。検診でこんなにおっきくして」
「かんご……あ、あきらのせいですよ？　これは」
露出の興奮とともに愛情も込み上げ、初めて呼び捨てにすると、愛煌はばつが悪そうに恥じらった。
「いきなり『あきら』だなんて、不意打ち……反則」
名前で呼ばれるのはまんざらでもない様子で、もじもじするところが初々しい。
勃起が癖になりつつあるオチンチンは、赤ん坊の手首くらいに幹が太っており、逞しい硬さで先端を持ち上げていた。亀頭は半分まで皮に包まれている。
看護婦は数回の瞬きで瞳を大きくし、勃起に見惚れた。
「こんなのが私の中に入って、暴れてたなんて……はぁ、ドキドキって聞こえるわ」
観察と併せて、聴診器で脈も読み取られてしまう。どきどきしているのは胸であって欲しいのだが、病み上がりの身体でもっとも元気なのはペニスだった。
「触診もするわよ。ご主人様は脚、広げて」
「は、はい。こうですか？　あきら」
脚を開いたところに、枕にもなりそうなサイズの巨乳が飛び込んでくる。
愛煌は大人びた顔つきに、幼い照れ笑いを浮かべた。
「なんか、あきらって呼ばれると……サービスしたくなっちゃう感じ」

名前で呼んでもらえるのが嬉しいらしい。サービスのため、自ら背中へと腕をまわし、ブラジャーのホックをはずす。

すると、ブラジャーのカップが手品みたいに剥がれた。純白のナース服の中央で、涎と果汁にまみれた生乳が露わになる。両角の桜色が緊張気味にひくついて、愛らしい。

「ご主人様、見てて？　んふ、びっくりさせてあげる」

同じくらい愛らしいお耳を前に傾けつつ、オオカミナースが肉棒へと襲い掛かってくる。ブラジャーの装いを引っ掛けた巨乳は、男の子の股座に重たく乗りあがり、剛直を谷間へと誘い込んだ。

「うあああっ⁉　おっ、あぅ……あぁ、あきら！　これって」

まさかのサービスに、少年は刺激の前から恥声をあげてしまう。

乳圧がほぼ筒状に働いているため、すんなりとはいかない。ナースは乳塊を左右交互に動かすことで、圧力に一時的な隙間を作り、少しずつ肉柱を捻り込んでいった。

すでに乳谷は液の類で温かく潤っており、感触は膣にひけを取らない。

ぬちゅぬちゅっ、ずりゅりゅりゅ！

音まで、まるで結合そのもの。包皮は狭さによって剥き降ろされ、真っ赤な亀頭が肉厚の傘を広げた。空気と触れるだけでも、包茎少年にとっては刺激だ。

「すっすごいです、パイズリ！」

「ちゃんと知ってるんじゃないの、エッチ。あはぁ……それにしてもほんと、硬くしすぎよ？　こんなに腫れてると……っはあ、マッサージが必要ね」
サービス過剰なナースが、剥き出しの亀頭へと湿った吐息を漂わせながら、双乳を押し掴む。そして腫れぼったくて熱を持った「患部」を、柔らかくマッサージ。
「あう？　う、動いてますっ、オッパイが！」
少年は上半身を起き上がらせ、見下ろす角度でパイズリに見入った。手で触った時よりも柔らかく感じられる生乳が、大きな餅みたいにひしゃげる。
その中央にある狭苦しい隙間で、肉棒が苛烈に締め付けられるのだ。ピストンほどの前後動はなくとも、波打つ圧力が緩急となって幹太を扱く。
乳房には相当の重さがあるはずだが、潤滑油のおかげでよく弾む。
「んあはっ、思ってたより、くふ、簡単……ね。どう、気持ちいいでしょ」
先日のフェラチオよりも余裕のある愛煌は、ペニスの敏感さに注目していた。先走り汁の理由を知っているらしく、勝ち誇ったようにはにかむ。
同時に華奢な肩を力なく下げ、牝オオカミは肉体の感じやすさに悶えてもいた。
「わ、私まで、んはぁ……ヘンな感じ、カラダが疼いちゃってる」
余裕を装っても、女の羞恥と牝の快楽を隠しきれていない表情が、男心と表裏一体の劣情までそそる。

眉は八の字に傾いて、こめかみにも力が入っていない。黒目がちな瞳にうっとりと悦を満たし、自ら息を荒らげていく。

「気持ちいいですよ、こっ、こんなにされたら、っはあ！」

言葉がままならないほどの息遣いで、少年も悶えた。肉棒の芯が過熱し、先端へと血液を届かせる。ペニスは幹太でありながら先太にもなり、亀頭を腫れあがらせる。

鈴口はぱっくりと割れ、カウパーがぴゅっと先走った。

「もう少しゆっくり、んあ、お願いします」

「いいわよ。……あふん、これくらい？」

快感を受ける回数を減らしてもらっても、肉感美女の色香が性的興奮を触発する。巨乳ナースは乳奉仕のため前のめりになりつつ、お尻を高くした。フサフサの尻尾がミニスカートを捲り、お尻の曲線をちらつかせる。

女の子に下の世話などをさせている、という支配感も欲情を煽り立てた。

（お嬢様に、いえ、あきらにヌいてもらえるなんて！）

ペットでいる間は従順な愛煌も、淫らな乳遊びに感じているのは間違いなく、どんどん吐息が悩ましいものになっていく。この瞬間を、カメラで撮影せずにはいられない。

巨乳美女はカメラ目線でこちらを見詰めていた。

「可愛く撮りなさいよ？　っあふう、パイズリしてあげてるとこ」

一流のモデルみたいに身体をくねらせ、ナース服越しに女体曲線を強調する。
あられもない姿に向かって少年は何回もシャッターをきり、途中からは録画機能をオンにした。パイズリならこちらが動く必要はないので、カメラをほぼ固定していられる。
「ねえ、ご主人様。撮ったの……ンッ、あとでどうするの？」
「それは、その……秘密ですよ、っうはぁあ⁉」
強い快感が、さきっちょに不意に襲った。牝オオカミが、生乳の隙間にあるモノにがっつくように首を伸ばし、亀頭に舌を這わせたのである。
ずっじゅる！　ずちゅっ、じゅるじゅる！
下品な吸い音を立てながら、男の子の急所にしゃぶりつく。ただでさえ乳肉の麓で幹胴をきつく締め上げられているのに、剥き出しの性感帯を舐められてはたまらない。
「だだっだめです！　そこはよわっ、くはぅ、弱いですから！」
「よわいふぁらいいんれしょ？　ここっれ、ふぐっむ、くせになりそぉだし」
叫ぶように喘ぐ少年の股間で、ナースは大好物を味わっていた。しとやかな唇を窄めることで、出入り口を窮屈にし、鈴口に吸い付きを集中させる。
同時に舌をぬるりと旋回させ、痺れる亀頭へと粘った抱擁を絡みつかせてくる。端整な顔立ちは唇を歪に伸ばしてまで、勃起を放さなかった。
「も、もう……んはあ、気持ちよすぎます！」

カメラを構えていられるのが不思議なくらいだ。サオでパイズリ、先端でフェラチオという二重の快楽が、股間の熱量を膨張させる。少年は軽い発作に陥り、巨乳ナースの熱烈な乳奉仕を、カメラ越しに凝視した。

涙が滲むほどの快絶で、腰は完全に抜けてしまっている。発汗も凄まじく、裸であっても異常に蒸れて、空気を直に感じられない。

「んもごぅ、もっとよぐ、してふぁえるんだから、っあむぅお」

悶絶する男の子を見上げる牝オオカミが、挑発的に瞳を光らせた。豊乳を揉みしだくのも忘れずに、熱くぬめった舌で亀頭を舐めまわす。

まるで熱せられたバターを被せられていくような感触が心地よい。

「こおれしょお？　んぐッ、わはってひたもの、さきっちょに、れろれろっれ」

ずっずちゅ！　じゅじゅるっ！　ずちゅっ、ずちゅ！

破廉恥な音にナース本人が顔を赤らめても、食欲旺盛な舌は止まらない。

可憐な唇への劣情は、さらに巨乳で押し揉まれ、どんどん高まっていった。カウパーの量が多くなり、股間の奥底にあった熱量は間もなく、生理的に尿道に差し掛かる。

「だっだめです！　そんなにされたら、うあぁ僕もうッ！」

異性相手に射精の経験があるとはいえ、後ろめたい。しかしその背徳感も大きな興奮となって、少年を昂らせる。

オオカミナースはとどめとばかりに乳奉仕のペースをあげた。麓をむんずと掴み、搾るように揉み込む。涎と果汁のおかげで滑りがよく、剛直に重さが掛かりやすい。
「ちゃんとカメラっ、あはぐ、とるぉよ？　むぷぅ、んうぐ！」
カメラ目線は少年の表情を見逃すまいとしていた。恥ずかしさはあったが、排泄の軽く数倍はある性急な意欲を堪えきれない。かといって、乳圧が凄まじいせいで放出もままならない、快楽の無限ループだ。
肉棒の熱量が乳圧を上まわるまで、サオは扱かれ、亀頭はしゃぶられる。
「あきら！　僕もうっはぁ！　はぁはあはあ――あぁあああああ！」
先端で高熱が閃くと、反射的に腰がぶるついた。漏出感は瞬く間に快美感となり、少年の急所を優しく蕩かしてしまう。
どびゅっびゅ！　どびゅっ！　びゅびゅっ、びゅるびゅる！
「きゃふっ⁉　んおご、っぷはぁ！　ひはぁぶ！」
今度はオチンチンのほうがナースの美貌を逃がさない。
巨乳に挟まれているおかげで、男の子は拍動をより強く感じながら、甘美な肉悦に酔いしれる。与えられた分の刺激が一気に戻ってくるかのようで、頭の中は丸ごと、真っ白にくり抜かれた。
牝オオカミはいきなり大好物のチンポミルクを浴びせられて、びっくり。

OPTICAL & DIGITAL VIEW
MENU

第五話　お嬢様の花嫁修業

「そっそんなこと、ありませ……んぁくふ！」
尻穴メイドは不規則に空腰を打ち、玩具の電動に悶えていた。悩ましそうに湿った吐息をばらまき、牝の色香をにおい立たせる。
コードを軽く引っ張ってやると、肛門がびくっと怯えるように窄まる。
「えへぁ、ら、らめ……見られてると、あはっ、す、すごく！」
前の穴には愛煌本人の手が潜り込み、ショーツに隠れた部分をほぐしていた。
（……も、もうガマンしてられません！）
そんな彼女を「可愛い」などと思ってしまって、興奮に拍車が掛かる。恋だの愛だのと格好つけている余裕はない。
「おいで、僕のメイドさん。上に乗ってごらん」
ご主人様はベッドで仰向けになり、肉棒をほぼ垂直に勃たせた。とば口はすでに新しい蜜を滲ませており、触らずとも、浮かび走る血管の脈拍を数えることができる。
「そんなふうに優しく言われたら、私……はぁ、失礼します」
お耳が愛らしいメイドはおずおずと少年に跨り、汗みずくの巨乳を揺らした。ハイヒールを履いたままでもお構いなしだ。
踵で踏ん張って膝を浮かせ、みっともないM字開脚をひけらかす。
「ごらんください、ご主人様のための、お、おトイレです」

メイドドレスとロングヘアの織り成す姿は優美だったが、自らスカートをまくしあげては台無し。ショーツは中央にチャックが仕込まれており、股上から左右に開く。

幼い秘裂は肉畝をぴったりと閉じ合わせており、不可侵性を漂わせていた。それが彼女の全身ごと、怒張の真上へと降りてくる。

「あぅふ？　ご主人様は動かないでくださいね、んはあ、私がすぐ、オマ〇コの中にご主人様をお招きしますから……」

そのまま挿入してしまっていいにもかかわらず、嫌がるのではなく遠慮するような、切ないまなざしが、男心を煽り立てる。

「ふらふらしてますよ？　僕も手伝ってあげます」

穴へと迎え入れられるのを待ち侘びる男の子は、メイドの細腰を抱えずにいられなかった。剛直には愛煌の手が最初に降りて、サオを優しく扱く。

ふたりで息を合わせるのがセックスだ。同じ緊張感に震え、おそらく彼女も胸を躍らせているに違いない。

「ご主人様の、やっぱりおっきい……あぁく、んぃ、いいいいいい！」

穴が狭い愛煌は奥歯を噛み合わせ、恐る恐る、怯えがちな腰を降ろし始めた。

ずっずぶ、ずぶぶっ！

膣前庭まではすんなりと入るものの、膣口がいきなり狭すぎる。少年のほうも最初は歯

軋りして、穴を傷つけてしまうのでは、という躊躇を押し殺さなければならない。
「入るはずです、あきら、くうっ、頑張ってください！」
「が、がんばってこれなの！　あいぃ……はいんない……ッ！」
肉唇に蓄えられてあった発情汁が溢れ、勃起でも熱い液漏れの感覚がする。
道はなかなか開けなかったが、彼女がのけぞった拍子にベクトルが変わった。アンバランスなM字開脚が股座に体重を一気に掛けてしまう。
ずぶずぶずぶ！　ずちゅっ、ずちゅずちゅ！
「ひはあぁあああッ⁉　はいっれる、んはぁ、はいったのぉお！」
肉太が秘裂を押し割り、根元までずっぽりと嵌まる。鳴き声を色めかせるメイドは、小犬のお耳を立て、膣の満腹感に屈服した。
「すっすごい！　最高ですよ……あ、あきらのオマ〇コ！」
少年も膣の心地よい狭苦しさに悶え、口の端から無自覚に涎を零す。先端から根元までを煮えた粘膜で熱烈に包まれる、極上の締め付けがたまらない。
「ご主人様のチンポらって、さいこおなの！」
甘えん坊のペットも涎をぶらさげ、肉棒の逞しさを堪能していた。少年のお腹についた両手が、ふるふると指を立てる。
単純に刺激ばかりでなく、結合の卑猥さも性的な高揚感を煽った。自分のもっとも汚い

部分が、女の子のもっとも清らかな部分に入ることを許されたのだ。
「ずっぽり入ってますよ、はぁ、とてもいやらしいですね」
彼女と特別な関係になったことが実感できて嬉しい。
挿入で結構な体力を使ったらしいメイドを休ませるつもりで、ご主人様は、無防備な巨乳をむんずと鷲掴みにした。
「やぁん、ご主人様、さ、触っちゃ……あはぁん」
枕にも使えそうな大きさと柔らかさが一緒くたに弾む。乳肉を指で手繰り寄せ、桜色の蕾を摘むと、牝犬がか弱い声で鳴く。
メイドが腰を捻るたび、尻尾は男の子の玉袋を撫でた。思った以上にセックスに便利なコスプレで、とにかく刺激の種類と数が多い。
騎乗位のおかげで、汗だくの生乳といやらしい結合部、そして牝の蕩けた表情を一度に眺めることができる。
「はやく動いてくれないと、はあっ、オッパイ引っ張りますよ？」
ただし彼女が腰を振ってくれないことには、性感帯に刺激が飛びついてこない。肉太がもどかしそうにのたうち、亀頭に疼きを漲らせる。
「ちゃんとするからっ、あぁん！　ひぁ、引っ張らないで！」
乳果実の突起を牽引されながら、メイド犬は浅ましく腰を振り始めた。上下よりも前後

に動いて、勃起の角度に肉襞のヌルヌル感を熱く絡みつかせてくる。
ずちゅっ、ずちゃ！　ぐちゅ、ぐちゃ！　ずちゃっ！
肉と汁の混ざる音が鳴り、ストロークにリズムを持たせる。剥き身のペニスから股関節へと伝わる痺れは凄まじい。
愛煌は少年のお腹に両腕を突っ張らせ、巨乳もろとも全身を弾ませた。窮屈な肉穴でも体重が掛かるおかげで、抜き挿しはスムーズだ。
交尾の運動にどんどん勢いがついて、ふたりともひっきりなしに喘ぐ。
「その調子ですよ！　もっと！　はあっ、ず、ずぼおって深く！」
「こぉれしょ？　あへぁ、じゅ、じゅぼずぼって、いっへるのぉぉ！」
騎乗位メイドはロングヘアを翻して仰向き、犬である本性を露わにしていた。
まなざしは羞恥と快楽で潤みきっており、守ってやりたい保護欲と、犯してしまいたい劣情をそそる。しどけない唇は湿った吐息を散らし、牝のにおいを充満させる。
「はあっあぁ！　きっ、気持ちいいですよ！　うぁあ！」
下敷きにされている男の子は発作に陥っていた。自分で抜き挿しする時は、まだ無意識にブレーキが働いていたのかもしれない。しかし相手が動く騎乗位では、こちらで快感を食い止められず、肉体の昂りを強制されてしまう。
仕事熱心に腰と尻尾を振りながら、生意気なメイドは早くも言葉を崩した。

「もっと気持ちよく、っあん、してあげる！　ご主人様の弱点、ぁひあ、もお、わかっちゃってるんだから！」

膣のうねりを操るかのようにウエストをくねらせ、フリルで舞う。けれども可憐な装いの下で催されるのは、生のチンポセックス。

「だめです、いぃ、いきなりそんな！　こすれ、ぇあくう！」

肉厚のエラが膣圧に逆らっても、体重の乗ったストロークで矢継ぎ早に擦られる。

身体中が熱化し、恥汗でべとべとだ。特に肉棒は高熱を発し、性感帯の感度を異常に高めていた。膣の苛烈な締め付けがなければ、とっくに液が出ているだろう。

ずちゅっずちゅ！　ずちゃっ！　ぐちゅぐちゃ！

腰の動きに捻りも加わり、無数のヒダヒダが流れるように勃起にまとわりつく。

「これしゅき！　せっくす、んあぁ、ちんぽせっくす！　ごしゅじんさまのが、あんったり、はいったり！　こすれてぇえ！」

淫乱な穴の両脇では肉唇が出たり入ったりして、ご主人様の極太を食べていた。発情のエキスはかき混ぜられるうちに白く濁り、強い粘り気を帯びている。

反復運動を繰り返すたび、肉洞はキツキツにうねった。

「くうっ！　し、搾り取られ……こっちのおくちも、うはっ、よすぎます！」

ぬかるんだ粘膜の荒波が、元気な肉棒を何十回も呑み込む。雁首を境として、サオでは

皮越しの肉襞が亀頭で鮮明に感じられ、悦痺れを引き起こす。
悶える少年の手に力が入った。生乳に全部の指を立ててしまう。
「まだまだ、んへあっ、これからなんだからっ！　夢中にさせて、っえはぁあ！」
犬なのに牛のサイズもある巨乳を揉みしだかれながら、セックスに夢中になっているのは、むしろ愛煌のほうだった。嬉しそうに尻尾を振り、玉袋をくすぐる。
唇に肉棒を突っ込まれていた時と変わらない顔つきで、瞳を涙いっぱいに蕩けさせ、色めいた吐息を連発する。
漆黒のメイド服はずれ、暴れる肉体が目に見えた。
「そんなに暴れたら、っうはあ！　僕もあきらも、ひはっあ！」
「だって、きもちいぃのが、あん、とっ、とまらぁし！」
ベッドが軋むほどの運動で、メイドは当然、ご主人様までマラソンみたいに息を乱している。掴んだ生乳も汗びっしょりだ。
愛煌が前のめりになった意図は聞くまでもなかった。
けれども意地悪なご主人様はキスを逸らし、生乳の蕾を頬張ってしまう。赤ん坊みたいに甘える乳吸い行為は幼稚で恥ずかしいはずなのに、興奮ばかり大きくなる。
「んっんぐ、はぁ、美味しいオッパイです」
「ちゅうって、やん、吸っちゃだめ！　びりびりきちゃう！」

牝犬の甲高い鳴き声からしても、しこった乳芽は敏感だ。弱い力でも咥えられる母性的な柔らかさは、少年の口とフィットし、自然と吸う動きを繰り出せた。

唾液の糸が切れないうちにもう片方も舐め、舌で首筋へと這い上がる。手で触るよりも優しくていやらしい愛撫の応酬に、メイドは屈し、両肩とも持ち上がっていない。

「ご主人様、んふっあ、お願い……焦らさないで」

そんな彼女の緩みがちな唇に、秀一はキスを重ねた。どちらも荒々しい呼吸のせいで舌が飛び出し、合流とともに熱烈に絡みあう。

「はあ、あ……っく、あきら、もっとびちょびちょに」

「あぉおぐっ、んむう！　っぷあ、ご、ごしゅじんはまぁ」

互いに歯列をなぞったり、舌を捕まえあったり。ロマンチックとは言えない涎まみれのキスが、淫らな酔いを中毒にする。

「ぷはあ！　もうらめ、あぁん！　いいの、オマ〇コ気持ちよすぎ！」

キスを離してから、騎乗位のダンスにはさらに上下の動きも加わり、抜き挿しの距離が長くなった。少年が双乳の麓をむんずと押し掴んでいても、メイドの腰はよく動く。

肉感的な太腿はお尻を持ち上げ、落下させた。

ぐちゃぬちゃ！　ぬちゃっ、ぬちゅ！　ぬちゅぬちゃぬちゃ！

膣の奥のほうでも卑猥な音が響いているのがわかる。秘粘膜はぬめり、ひしめく襞の感

触が先端でみるみる数を増やしていく。
「きもちぃのが、おぉおく！　んへぁ、おくに届くの！」
同時に締め付けも強くなり、サオを扱き抜かれた。怒張が子宮に届くと、膣全体が収縮し、オチンチンを抱き締める。
その快感が病みつきになって、仰向けのご主人様も夢中で腰を返した。
「僕も！　もっとおくにっ、はあ、あきらのしきゅうに！」
カウパーが先走っている熱硬い亀頭で、ひたすら子宮にプロポーズ。肉体の快楽とともに想いも高まり、言葉となって飛び出す。
「あきらのしきゅうにも、ぁふあっ誓いの！　誓いのキスです！」
雁太の口付けでPスポットがめり込むたび、愛煌の息遣いが荒くなった。
「もっとキスして！　あんっ、わたしのしきゅうに、ぅはお、ごりぃって！　ごしゅじんさまのれ、ごりごりって、キス、エッチなキスぅ！」
ふたりきりの結婚式場となったベッドの上で、淫欲の笑みを深めながら、セックスの快楽を貪っている。ご主人様を踏みつけてまで。
ぢゅぶっぢゅぱん！　ぢゅぱん、ぢゅぱんっぢゅぱんっ！
スライドする結合部では肉唇が引きずり出され、粘性のエキスを泡立てていた。勃起は秀一と愛煌を繋ぐ、生きたバイブとなっており、摩擦を共有できる。

喘ぎもひとつとなり、ふたり一緒に昂っていく。
「あああっ出る！　もうっ、もう出そうです！　ぼ、僕のせーし！」
「だひてぇ？　わたひもイク、イきそお！　びゅっぴゅひてぇ！」
膣は奥に向かって縮動を始めていた。それをくぐる肉棒も、根元で圧力を膨張させ、物理的な高熱を生み出す。
限界が近づくにつれ、より多くの刺激が欲しくなる。それはパートナーも同じらしく、巨乳美女は大胆なM字開脚を繰り返し折りたたんだ。
もう互いに生唾を呑みくだす余裕もない。急所を悦痺れに襲われ、悩乱するだけ。
「えへぁあっう、ち、誓って？　こおやっていっしょぉ、ずうっと！　わたしのこと抱きしめれへ、ごしゅじんさまぁ！」
フリルの華やかなメイドが牝犬の声で、切に懇願する。ロングヘアを振り乱し、全身の動きを股座へと集中させる。
摩擦が窄まっていくのを感じながら、ご主人様も肉棒を打ち上げた。
「うあっ誓います、あきらのオマ〇コに、僕はっ、はあぁは、っはあぅあ！」
口が勝手に喘ぐせいで、もう台詞どころではない。告白したい分の想いもオチンチンに込め、愛煌の敏感な子宮を連打する。
こちらも敏感なさきっちょを酷使するものだから、悦楽から肉体を引き戻せない。

ぢゅぱんっぱんぱんぱん！　ぱんぱんぱんぱんぱん！
小犬のお耳が垂れるまで、メイドが前のめりになって加速した。
「イク！　イクのっ、ちんぽとけっこんして、いいっイきゅのぉお！」
少年のお腹にしがみついて、一心不乱に腰を突き動かす。赤ちゃん言葉でみっともなく悦がり、よく動く腰を打ち震わせる。尻尾は高い位置で旋回し、垂れてこない。
チンポセックスはふたりの結婚式。
ペットであり、メイドであり、花嫁でもある愛煌が、濡れそぼった牝穴で貪欲に秀一の勃起を貪り尽くす。
「ひはぅあああ！　いいぃイク！　イクっ、イクイク、イクぅ！」
フリル満開のドレスを、はしたないM字開脚で自ら暴く。とろとろの表情は少年の悶絶に見惚れ、唇は両端から涎を垂れ流していた。
「可愛いですよ、あきら！　はあっ、すごく可愛いです！」
甘えたがりの彼女を無性に抱き締めたくなったが、生乳までしか手が届かない。せめて調教棒に真っ赤な気持ちを込めて、子宮を乱打する。
ご主人様は吼え、愛犬の名前を連呼した。
「僕もイク！　イきましょう、あきら！　ああっあきら、あきらぁあああああッ！」
名前を呼ぶたび、猛烈な愛しさが股間に込み上げる。狙ったように怒張が子宮を殴った

瞬間、肉棒は甘美な高熱を噴き上げた。
どばどばっ！　どびゅっ！　どびゅ、びゅびゅ！　どびゅどびゅどびゅ！
極太の血管みたいに根からのたうち、愛煌の子宮に熱い想いを注ぎ込んでいく。同時に亀頭からサオへと、溶けるような快感が逆流してくる。
プシャアアアアアァァァアアア！
肉穴も盛大に飛沫（しぶき）を噴いた。
「なかれっ、なかでちんぽ暴れへりゅの！　あへぇえ、なかだはれて、ごしゅじんさまのれ、とかされひゃうぅぅうううぅぅうううう――――――！」
腰を止めても尻尾を振らずにいられない牝犬が、狂おしそうに吼える。
中出しがとどめの刺激になったらしい。便器穴は収斂し、煮え滾った粘膜でご主人様のオチンチンを包み込んだ。膣全体の収縮は、まるで汚濁をがぶ呑みするかのようだ。
「はあぁ……あきらのオマ〇コが、し、締まってく……！」
エクスタシーそのものを膣の温もりに抱き締められ、心地よい。頭の中までとろとろにされ、高揚感から降りてくることができない。
失禁を上まわるに違いない疚しい漏出感に、腰がぶるっと震える。
びゅくびゅく、びゅく……びゅくん、びゅくん、びゅくん！
愛煌も官能をシンクロさせ、押し下がった両肩をわななかせた。

この続きは製品版をご購入の上、
お楽しみください。

編集・発行
株式会社キルタイムコミュニケーション
〒104-0041　東京都中央区新富1-3-7ヨドコウビル
TEL03-3555-3431（販売）／FAX03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改さん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。
ⓒKILL TIME COMMUNICATION　Printed in Japan

http://ktcom.jp/

竹内けん

Takeuti Ken presents harem series official guide

ハーレムシリーズ

公式ガイドブック

竹内けん特別インタビュー他、
「歴史年表」「人物相関図」
等々あの超人気シリーズの
世界観を網羅した
完全ガイドが登場!!

特別描き下ろし
イラストも多数収録!

Now On Sale!!

A5判／定価990円(税込)

KTC 特設サイトはこちらからアクセス!! http://ktcom.jp/harem/

ATOMIC POCKET NOVELS NEW RELEASE

あとみっく文庫最新刊

ちょっと大人のライトノベル／毎月下旬ぞくぞく刊行中!! 定価／690円(税込)

全国書店で好評発売中

平凡な少年が女体化! 鬼に狙われた従姉妹を護れ!!

目覚めると従姉妹を護る美少女剣士になっていた

【小説：狩野景／挿絵：天鬼とうり】

全国書店で好評発売中

男の子と女の子——

二つの性の間で揺れ動く
男の娘が巻き起こす学園ラブコメディ!!

オトミコ! 僕は男の巫女娘

【小説：大熊狸喜／挿絵：大空一樹】

思春期なアダム5 アウトサイド・ドア

【小説：さかき拳／挿絵：天海雪乃】

全国書店で好評発売中

真夏のキャンプ場で勃発する天使VS魔族VS人間の三つどもえバトル!

既刊LINEUP 全国書店で好評発売中

- ●仙獄学艶戦姫ノブナガ!! ①〜③
- ●ピルグリムメイデン ①〜③
- ●不死の吸血鬼がFSのご主人様を募集しているようです
- ●思春期なアダム ①〜④
- ●呪詛喰らい師【カースイーター】①〜②
- ●女幹部メル様のセカイ征服計画!
- ●借金お嬢クリス ①〜③
- ●無敵の姫騎士がHMに目覚めたようです
- ●宇宙海賊学園ブラックキャット

KTC 発行◎株式会社キルタイムコミュニケーション
〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7ヨドコウビル TEL:03-3555-3431(販売) FAX:03-3551-1208

▶最新情報は公式サイトへ! あとみっく文庫 検索

キルタイムコミュニケーション オフィシャルサイト

http://ktcom.jp/

◎雑誌、コミック、小説の**通信販売**もやってるよ!
◎二次元ドリームマガジン・コミックアンリアルの**バックナンバー**も買えるよ!
◎**ジャンル別**で作品も選べて超便利!
◎二次元編集部の愉快な**Blog**も更新中!

KTCの戦うヒロインオンリー漫画雑誌! 18禁ではないからこそ表現できるドキドキがある!!

二次元ドリームノベルズがアニメにも進出! 新生ブランド・クランベリーをよろしく!!

二次元ドリームノベルズから生まれた美少女ゲーム! 「ミルフィーユ」ブランドにて続々登場!

二次元ドリームノベルズが携帯電話で読める! 携帯サイト限定の書き下ろし小説もあるよ!